ISBN978-4-06-283736-1
C0093 ¥1400E (0)
9784062837361
1920093014007
定価：本体1400円(税別)
講談社
平凡な大学生・淳平が目覚めると、そこは見知らぬ船室。
鉄の扉には、血のような真っ赤な塗料で
「5」の文字が書かれていた。
必死で記憶を辿る淳平に、
ガスマスクを着けた謎の男の顔と
奇妙な言葉が蘇える。
「これからおまえにはゲームをしてもらう。
『ノナリーゲーム』……生死を懸けた運命のゲームだ」
いま、壮大な謎と陰謀が仕掛けられた
『極限のサバイバル』が始まる！
チュンソフトが贈る
最新サスペンス
アドベンチャーを、
ミステリ作家・黒田研二が
大胆かつ斬新な解釈により
完全書き下ろし！
KODANSHA BOX
極限脱出
9時間9人9の扉
オルタナ上
黒田研二
原作―チュンソフト（シナリオ 打越鋼太郎）
KODANSHA
クC-01
Illustration―西村キヌ
原作―チュンソフト（シナリオ 打越鋼太郎）
著―黒田研二
KENJI KURODA
KODANSHA BOX
極限脱出
9時間9人9の扉
NINE HOURS
NINE PERSONS
NINE DOORS
オルタナ上
ALTERNA

しばしの沈黙のあと、まず八代が手を挙げ、【8】の扉に近づいた。

「ってことは、自動的に俺は【7】になるわけだ」

次に、セブンが【7】の扉の前に立つ。

「残りの人は？」

八代が尋ねた。
「紫は八代さんについてけ」
そういって、彼女を【８】の扉の前に立たせる。性格に多少の難はあるが、この中では一番信用できそうな気がした。娘について語ってくれたときのあの涙は、決して偽物ではなかったはずだ。彼女の身になにかあったときには、きっと親身になって助けてくれるだろう。
茜の進む道が決まったと同時に、残り三人の扉も自動的に振り分けられた。オレと四葉は

どうしても寝つけず、病室を抜け出して裏庭を歩いていたとき、八代はその少女と出会ったという。歳は高校生くらい――大きな銀杏の木の下にうずくまり、しくしくと泣いていたそうだ。

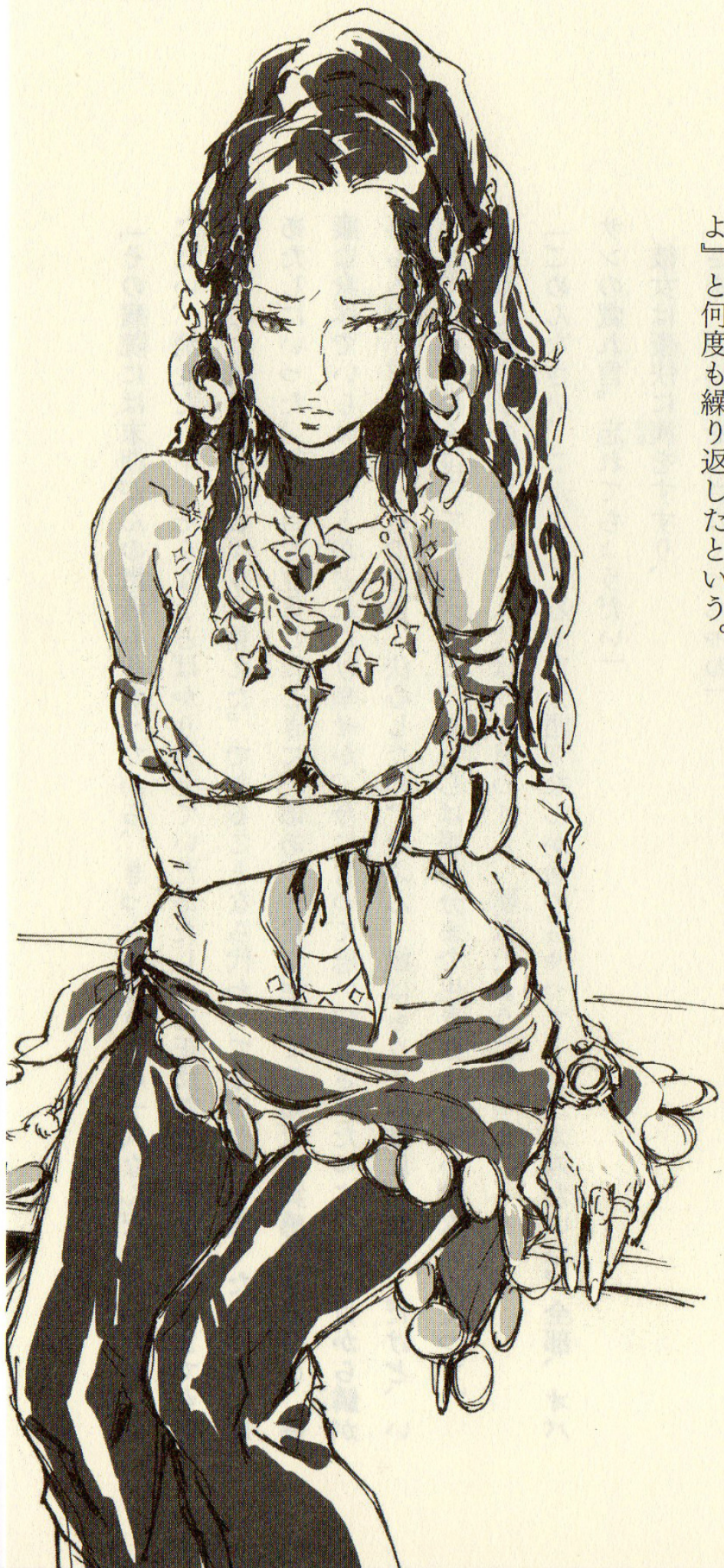
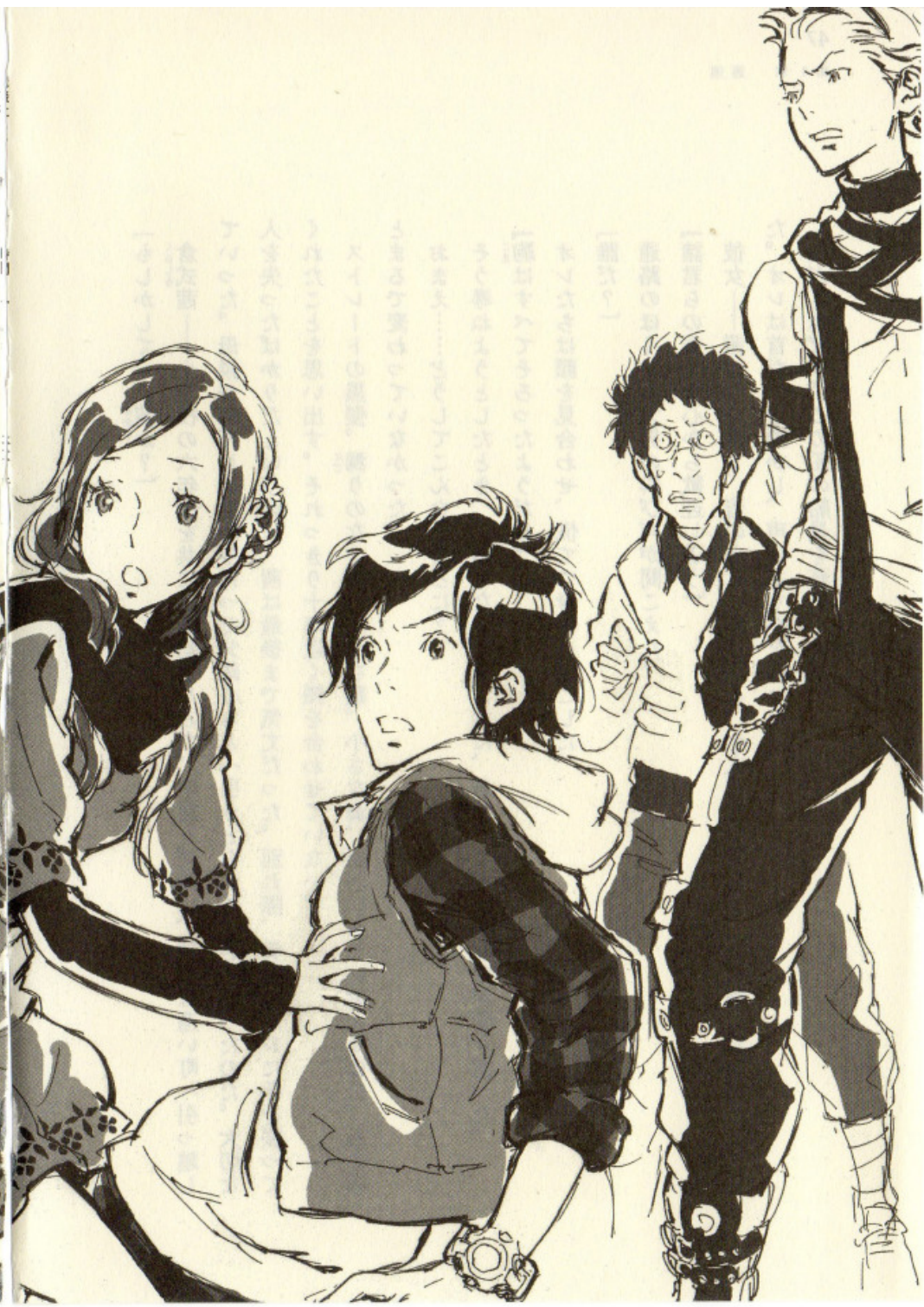
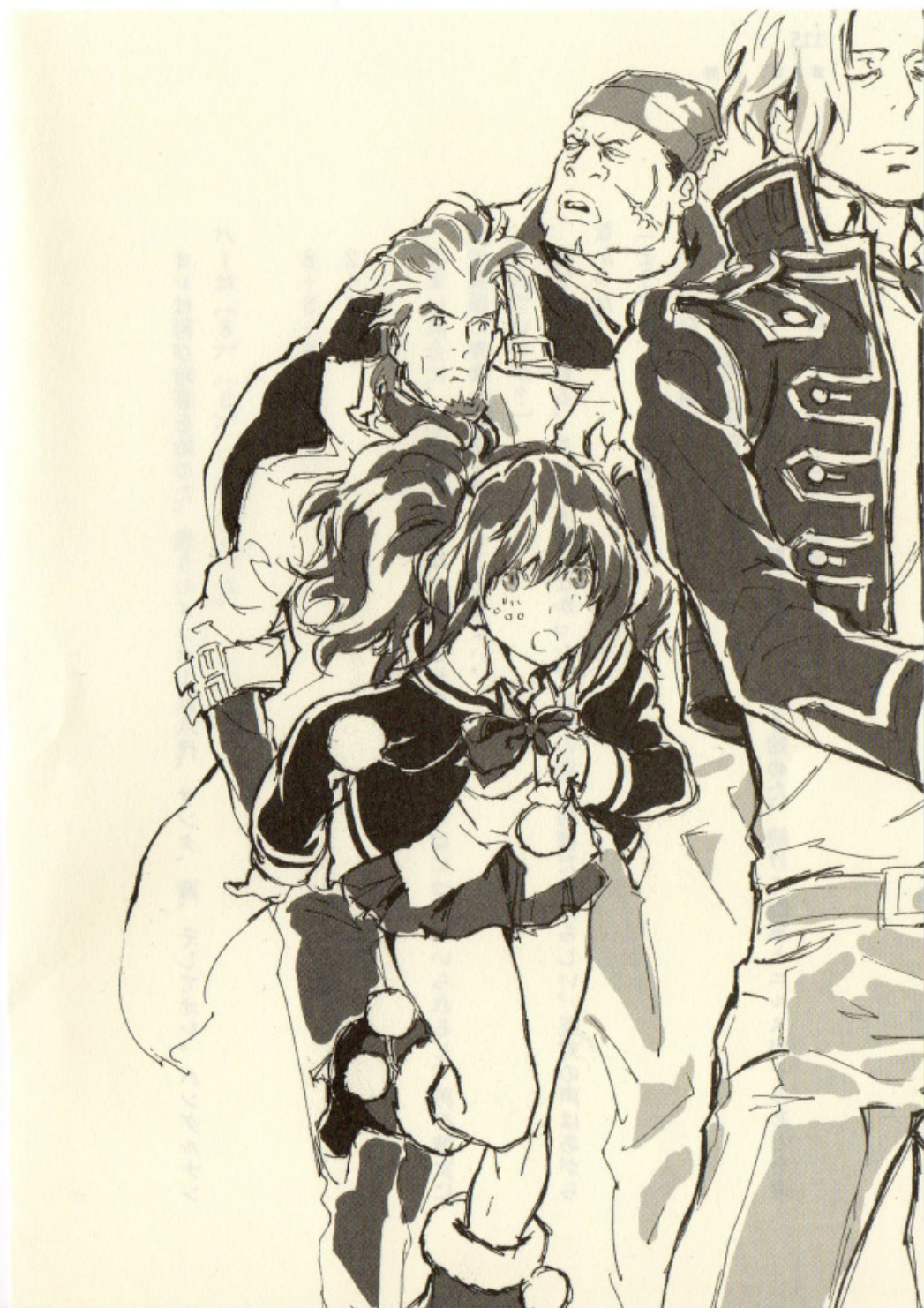
どうしたの？

そばに寄って尋ねると、少女は顔をそむけ、『死にたくないよ。この世界から消えたくないよ』と何度も繰り返したという。

淳平
バングルナンバー5
淳平

紫
バングルナンバー6
倉式茜

一宮
バングルナンバー1
老紳士

＊＊＊
バングルナンバー9
鳥の巣頭

ニルス
バングルナンバー2
王子

四葉
バングルナンバー4
赤毛

八代
バングルナンバー8
踊り子

サンタ
バングルナンバー3
銀髪

セブン
バングルナンバー7
大男

KODANSHA BOX
極限脱出
9時間9人9の扉
NINE HOURS NINE PERSONS NINE DOORS
オルタナ 下
ALTERNA
著―黒田研二
KENJI KURODA
原作―チュンソフト（シナリオ／打越鋼太郎）
Illustration―西村キヌ
KODANSHA
クC-02
チュンソフトが贈る最新サスペンスアドベンチャーを、
ミステリ作家・黒田研二が大胆かつ
斬新な解釈により完全書き下ろし！
「これからおまえにはゲームをしてもらう。ノナリーゲーム……生死を賭けた運命のゲームだ」
平凡な大学生・淳平たち9人は、ゼロと名乗る男に拉致監禁され、脱出のためにゲームを強制されていた。
爆発のタイムリミットまで4時間30分。
淳平が開いた扉の先には……!?
いま、すべての仕掛けられた謎が明かされ、極限のサバイバルが美しく完結する！
ISBN978-4-06-283737-8
C0093 ¥1400E (0)
9784062837378
1920093014007
定価：本体1400円（税別）
講談社

オレは彼女が手にしたルービックキューブどおりに、自分のキューブの配列を変えていった。六面そろえるよりも、骨の折れる作業だったが、ここでへこたれるわけにはいかない。

「裏面がよく見えない。キューブを右に百八十度回転させてくれ」

『はい……こうですか？』

「違う、その面じゃない。そう――そこ、そこで手を止めてくれ」

「ちょっと……どうしちゃったの？　一体、誰としゃべってるわけ？」

八代が不安そうに、オレの手もとを覗き込んでくる。

「それに、だんだん色がそろわなくなってきたみたいだけど」

「大丈夫です。すみませんが、ちょっと黙っていてもらえませんか？」

茜との同調に集中できない。

「でも……」

「八代。淳平に任せよう。僕たちにできるのは、ただ見守ることだ。九年前のあのときと同じように――」

ニルスが静かにそう告げた。

7

ようやく私は理解した。

九年後の兄がなぜ、淳平たちを拉致して、再びこの恐ろしいゲームを始めたのか？

すべては私を助けるためだったのだろう。

今、この瞬間の私を見て、兄は悟ったのだ。私と九年後の淳平の意識が、フィールドを介して繋がったことを。

しかし、この奇跡を生み出すためには、いくつかの条件が必要だった。

まず、淳平がエンジェルウィルスに感染し、その症状がレベル3まで進行しなければ

わめき散らす彼女の頬を、別の少女がひっぱたいた。泣いていた少女の目に、殺意のともし火が宿る。

ノナリーゲームが始まってから二時間。みんなの心はばらばらになりかけていた。

「みんな、ちょっと来てくれ」

そんなとき、ライトがいった。九年後にニルスと呼ばれることになる盲目の少年である。

「話しておきたいことがある」

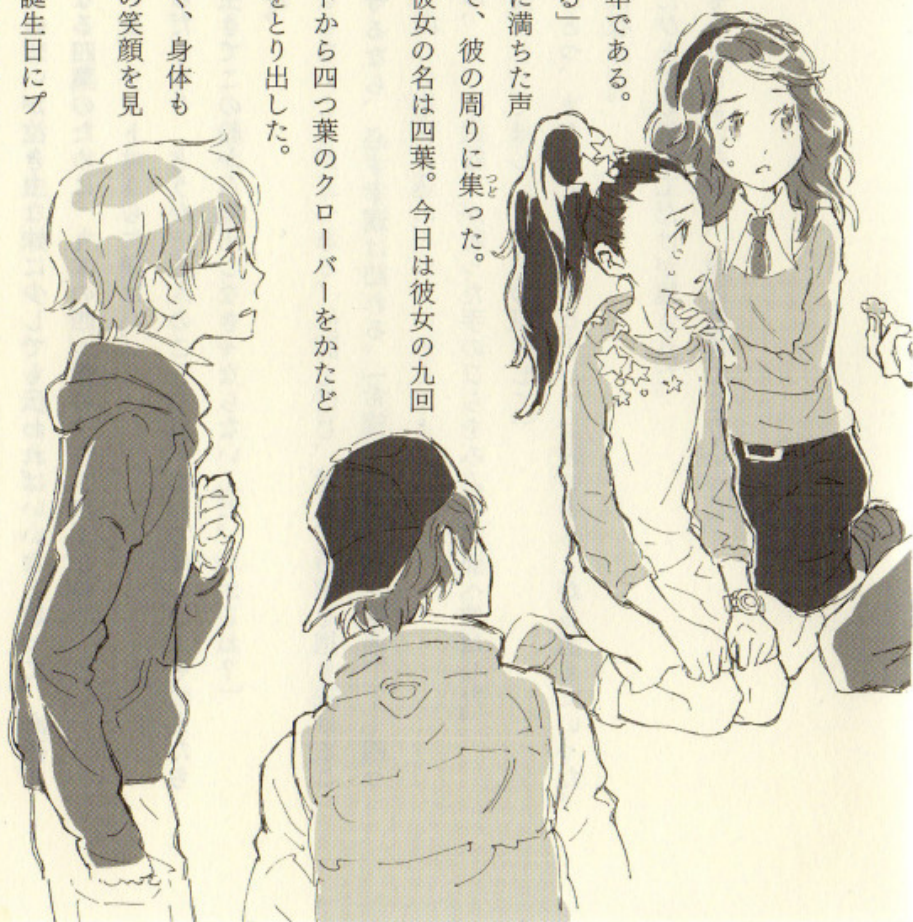
年長者である彼は、威厳に満ちた声を放った。一同は輪になって、彼の周りに集った。

「僕には大切な妹がいる。彼女の名は四葉。今日は彼女の九回目の誕生日なんだ」

そういって、彼はポケットから四つ葉のクローバーをかたどった銀細工のアクセサリーをとり出した。

「うわあ、可愛い」

私たち九人の中で一番幼く、身体も小さいノナが、ひさしぶりの笑顔を見せる。

「このアクセサリーは妹の誕生日にプレゼントするつもりで、二ヵ月前から

「へえ。覚えててくれたんだ」
それまで感情をおもてに出そうとしなかったサンタが、別人格でものり移ったかと勘違いするほどのにこやかな笑みを満面に浮かべた。
「アオイって？」
八代が尋ねる。
「九年前の実験に参加したメンバーの一人だ。あのときはまだ幼い子供だったが」
セブンが答えた。
「あのときはニックネームなんてダサいものはつけずに、みんな本名で呼び合ってたからな」